

少しさかのぼる四月二十三日
フィラデルフィア

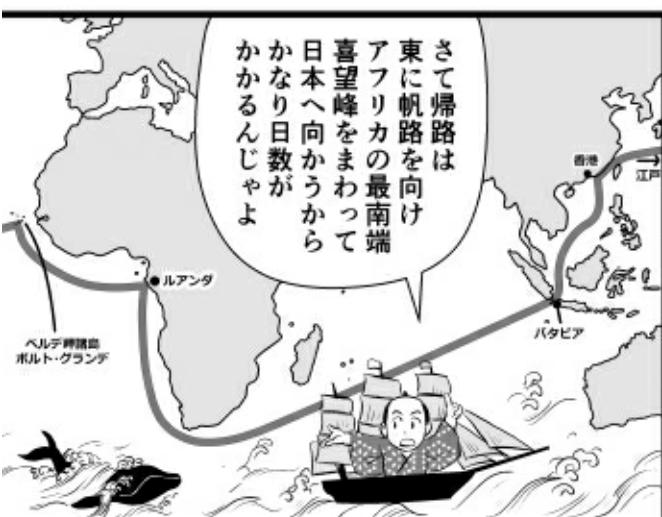
村垣様！
大変です！



五月十三日
一抹の不安を抱えながら
使節団一行は日本へ向けて
ニューヨークを出航する

はい…

これは誤報かもしだれぬ
余計な心配をかけぬよう
新見殿と小栗殿意外には
口外せぬように



幕末に世界一周
やってみた

10

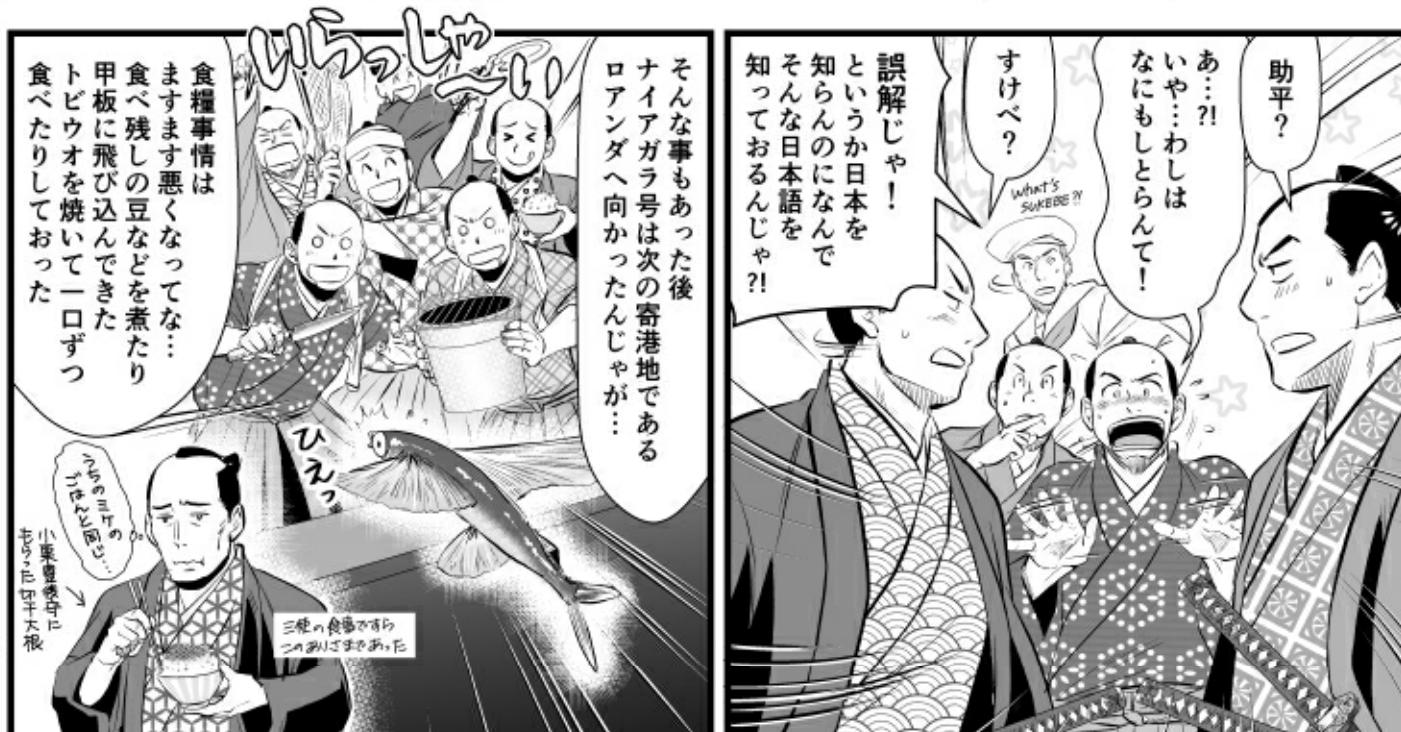
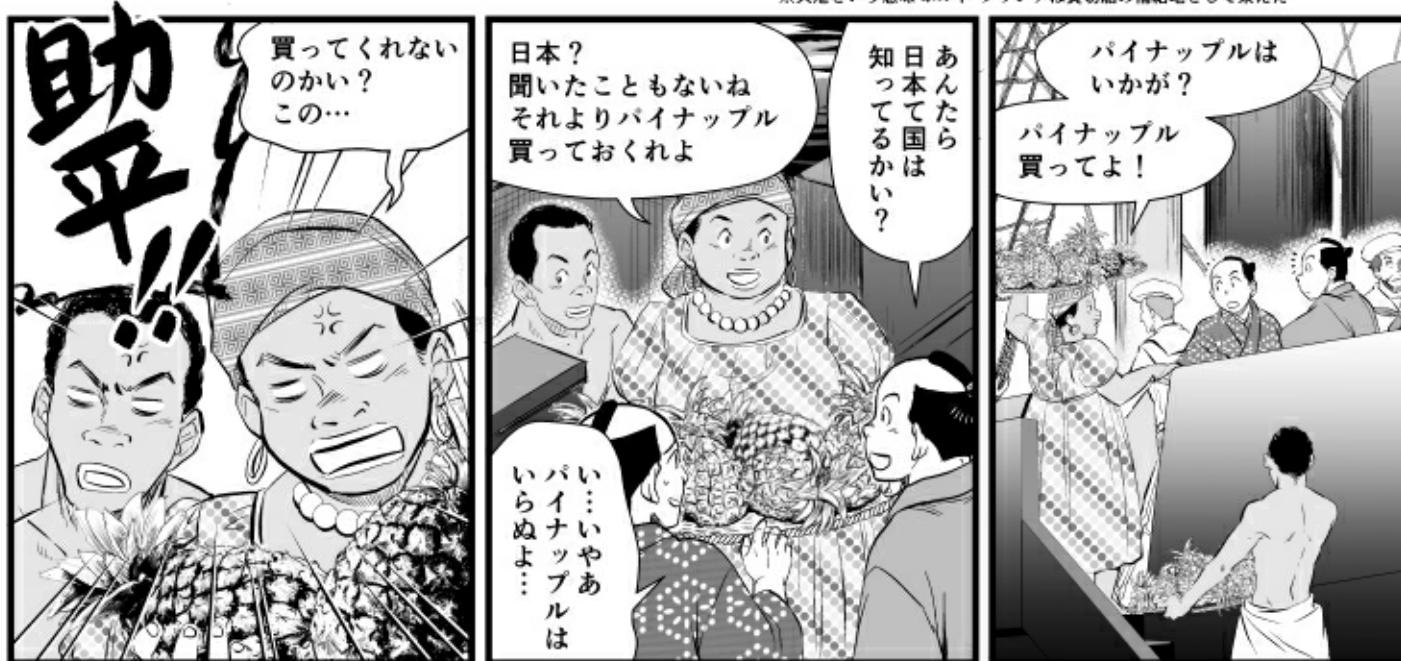
構成 - 川合登志和
漫画 - 秋桜

※実際には35フィート

1



※大港という意味。ボルト・グランデは貿易船の補給地として栄えた



六月二十二日
ポルトガル領ロアンダ着

ニューヨークから随分
来たのう



※現アンゴラのルアンダ



南十字屋↓



※300里=1200kmほど



※セントエルモの火

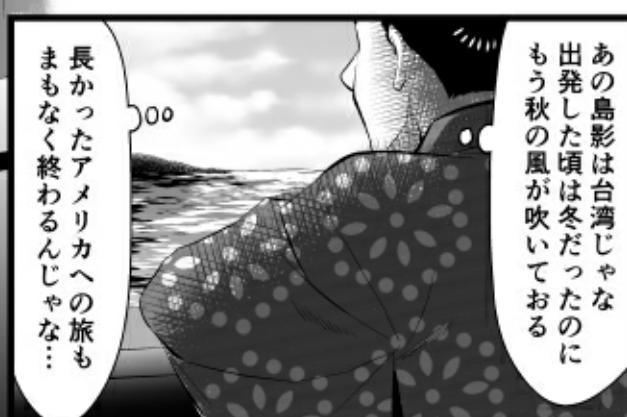




遣米使節のきっかけを担つた
井伊大老が暗殺されたとなれば
日本は攘夷の嵐の渦中であることは
誰にも簡単に想像できた
なにより使節団一行をここまで
かしいがいしく面倒をみてくれた
アメリカ側への対応が懸念された

井伊大老の暗殺である

なに?
日本人の漂流者だと?!



次回予告

日本へ帰ってきたら
様子が全く変わつておつた…

外國へ行き井伊様が進めた條約の
批准書交換に行つた役人たちは
いつ攘夷派に命をねらわれるかと
口をつぐんでおつた



じゃがわしは役人じやないから
誰もわしの命なんぞ狙わない

あちこちで外國の話が聞きたないと
ひつぱりだこでまさにバズつて
フォロワー急増という感じじやつた

時代の荒波は素毛の運命を狂わせる



そういえば季節もちょうど
中秋の名月の頃じやのう…
芋の名もをかしき國や 今日の月



タロイモ

ジャワのバタビアに寄港した時
面白い名前の芋があつたんじや
なんと「太郎」と言う名がついて
おつた！人の名前のようじやろ！
里芋みたいじやから
醤油があれば煮ごろがしにして
食べられるんじやがの

苗売

古泉老戯(素毛)作



当時江戸の町に
苗を売りに來ていた
苗売りの掛け声を真似て
作った戯れ歌じやよ

ナイヤナイヤナイヤカラ
先第一に湯水がナイ
三度の食に菜がナイ 鮭の切身は喰い人(て)がナイ
江戸から特越諸色がナイ 薪もナイ 塵もナイ
絆節ナイ 干魚ナイ 味噌もナイ 醬油もナイ
たまたまうまいと替わりがナイ パンはあれども砂糖がナイ
諸人の小言も無理はナイ 小言を言うても仕様がナイ
伊勢の親父はいくしかナイ 附添従者はつまらナイ
墨もナイ 筆もナイ 煙艸(たばっこ)は尽きて小もナイ
適(たまたま)まつ有つてもくれ人(て)がナイ
買うと言つても売り人(て)がナイ 金銀有ても工夫がナイ
雪隠一つ間に合わナイ 船将士官はあたじけナイ
深切がナイ 情けがナイ 何と言つても分からナイ
航海するのに気張りがナイ 石炭がナイ 風がナイ
船は行ナイ 帆は利かナイ 港へ着くのも見当がナイ
地方へそんなに遠くナイ 風さえよければ訳はナイ
ぶつぶつ言つても聞きともナイ 風さえよければ訳はナイ
彼は言つるのは勿体ナイ 御上の手當にぬけめナイ